2013年3月期第2四半期決算説明

2012年11月12日

山一電機株式会社

（証券コード　6941）

20121112決算説明会

※注意事項

本資料は、2012年11月6日現在の当社グループの事業内容、経営戦略、業績に関する情報の提供を目的としたものであり、当社が発行する有価証券の投資を勧誘することを目的としたものでありません。

本資料に記載した意見や予測等は資料作成時点の当社の判断であり、その情報の正確性、完全性を保証し又は約束するものではなく、また今後、予告なしに変更されることがあります。

ご説明内容

【1】上期決算と構造改革

【2】ＦＹ2012/１H業績について

【3】ＦＹ2012業績見通しについて

【付属】山一電機について

ご説明内容

【1】上期決算と構造改革

【2】ＦＹ2012/１H業績について

【3】ＦＹ2012業績見通しについて

【付属】山一電機について

FY2012 1H 決算

売 上 高	105．0億円
営業利益	▲6．0億円
経常利益	▲10．0億円
当期利益	▲20．6億円

PV事業撤退に伴う棚卸廃棄
引当　1．3億円

為替差損　3．6億円

減損損失　8．3億円
（CN生産設備7．9）
マティ早期退職加算金0．8

方向性の見直し と 構造改革

事業の方向性

TS事業、CS事業、OPT事業の、競争力を深耕できる事業に絞込み

CS事業は、デジタル家電・PC市場 ➡ 高速伝送市場への転換

成果を得るには まだ時間が必要

構造改革

当面の利益確保体質化、将来の収益性の高い体質への転換を目的に

構造改革を断行

ご説明内容

【1】上期決算と構造改革

【2】ＦＹ2012/１H業績について

【3】ＦＹ2012業績見通しについて

【付属】山一電機について

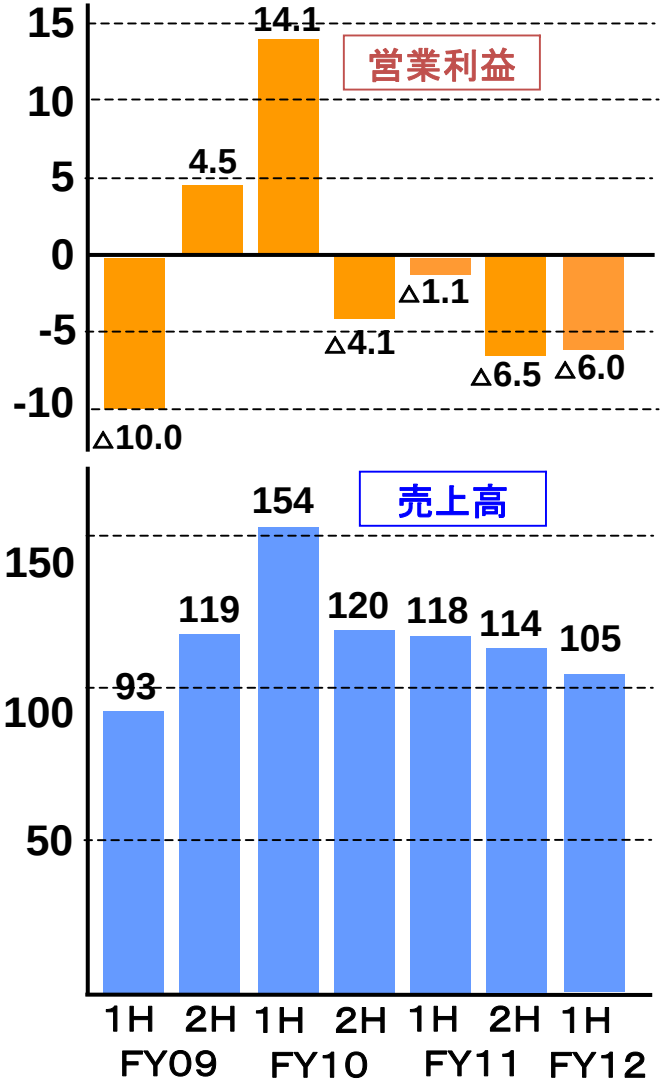
ＦＹ2012/1H決算のポイント

デジタル家電・半導体投資の低迷で大幅減収

	ハイライト	ローライト
TS （テストソリューション）	プローブピン顧客増加	半導体メーカーの設備投資が減退
CS （コネクタソリューション）	YFLEX製品が堅調	DSC・PC等の民生系需要低迷 AOC量産立ち上げ遅れる
PS （PVソリューション）		PS事業撤退
OPT （光関連）	新製品投入	DSC・DVC向けが低迷
EMS	新規ビジネス（タッチパネル）スタート	液晶パネルは終息方向 希望退職募集により規模を適正化

ＦＹ2012/1H業績結果について

国内市況低迷と円高により損益悪化

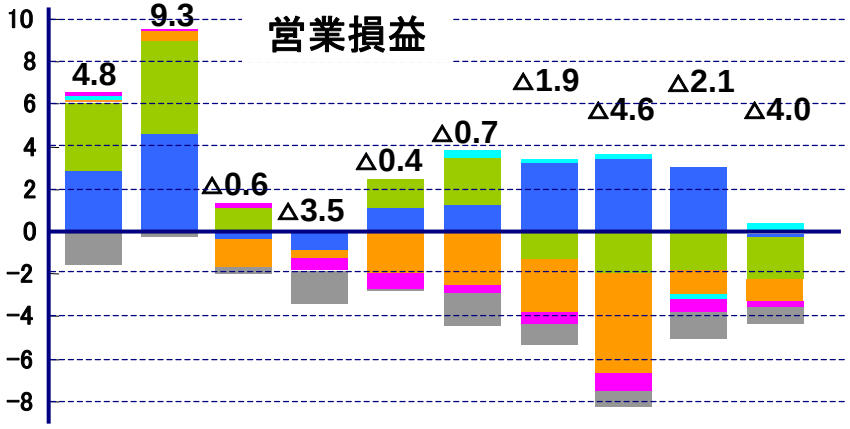


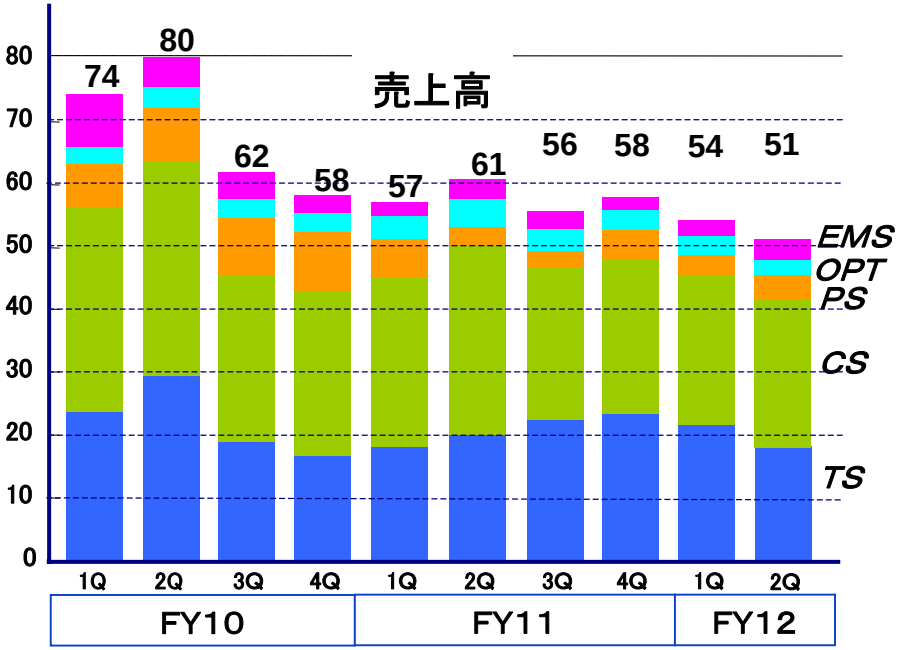
単位：億円	FY12 1H	FY11 1H	前年比差額	期初予想 1H	予想比差額
売上高	105.0	118.0	△11.0%	113.0	△7.1%
売上総利益	21.7	28.2	△22.9%	30.0	△27.7%
（販売管理費）	27.8	29.3	△5.2%	29.7	△6.4%
営業利益	△6.0	△1.1	△4.9	0.3	△6.3
（営業外損益）	△4.0	△3.7	△0.3	△1.3	△5.3
経常利益	△10.0	△4.8	△5.2	△1.0	△9.0
（特別損益）	△9.9	△1.1	△8.8	0.0	△9.9
（法人税等）	0.7	1.1	0.4	0.3	0.4
当期純利益	△20.6	△6.9	△13.7	△1.3	△19.3

営業外損失　5.1億円・・・ 為替差損 3.6億円
特別損失　9.9億円・・・ 減損損失 8.3億円（CS生産設備7.9億円）
特別退職加算金0.8億円（マティ）
関係会社清算損 0.7億円（台湾法人）

ＦＹ2012/1H事業別業績結果について

2Qは市況低迷の影響を大きく受ける





単位：億円

		FY12 1H	FY11 1H	前年比	期初予想 1H	期初予想 予想比
TS	売上高	39.4	38.2	3%	42.0	△6%
	営業利益	2.9	2.4	21%	4.4	△34%
CS	売上高	46.6	56.9	△18%	52.0	△10%
	営業利益	△3.6	3.6	—	△0.9	—
PS	売上高	7.1	9.5	△25%	4.2	69%
	営業利益	△3.0	△4.6	—	△1.5	—
OPT	売上高	6.4	7.9	△19%	7.2	△11%
	営業利益	0.1	0.2	△50%	0.2	△50%
EMS	売上高	5.5	5.5	0%	7.6	△28%
	営業利益	△0.8	△1.2	—	△0.2	—
Other	営業利益	△1.7	△1.6	—	△1.8	—
Total	売上高	105.0	118.0	△11%	113.0	△7%
	営業利益	△6.0	△1.1	—	0.3	—

※PS営業損失には棚卸資産廃棄引当等1.3億円を含む

ＦＹ2012/1Ｈの貸借対照表

現預金48億円、自己資本比率54%

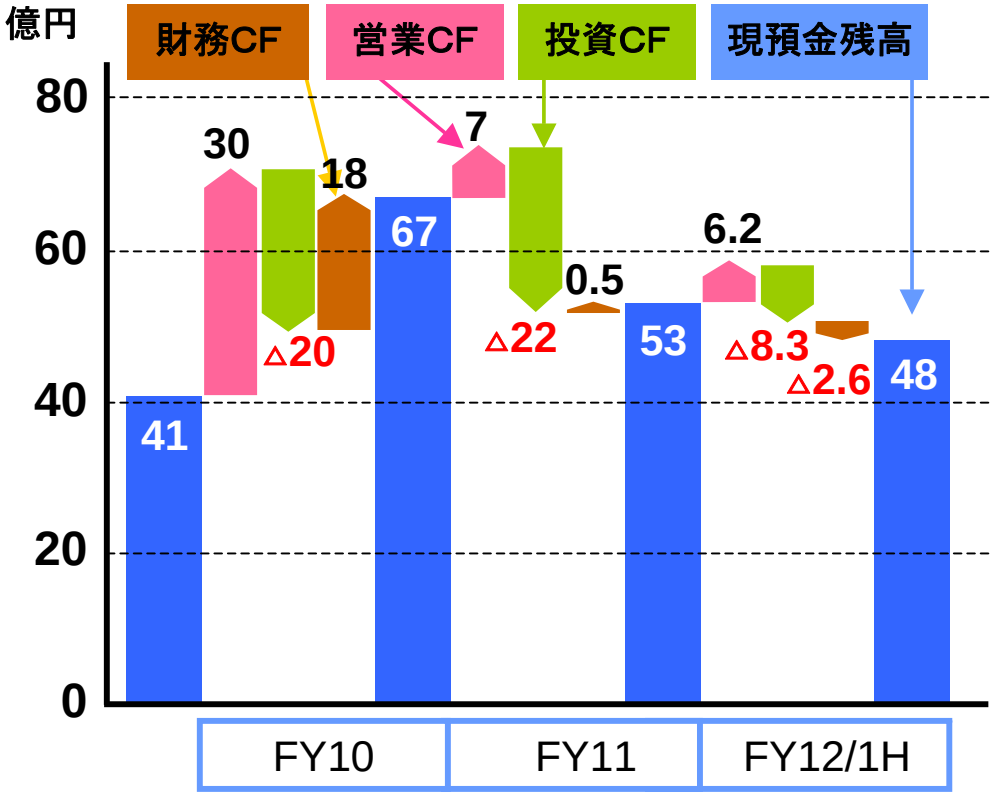
単位：億円

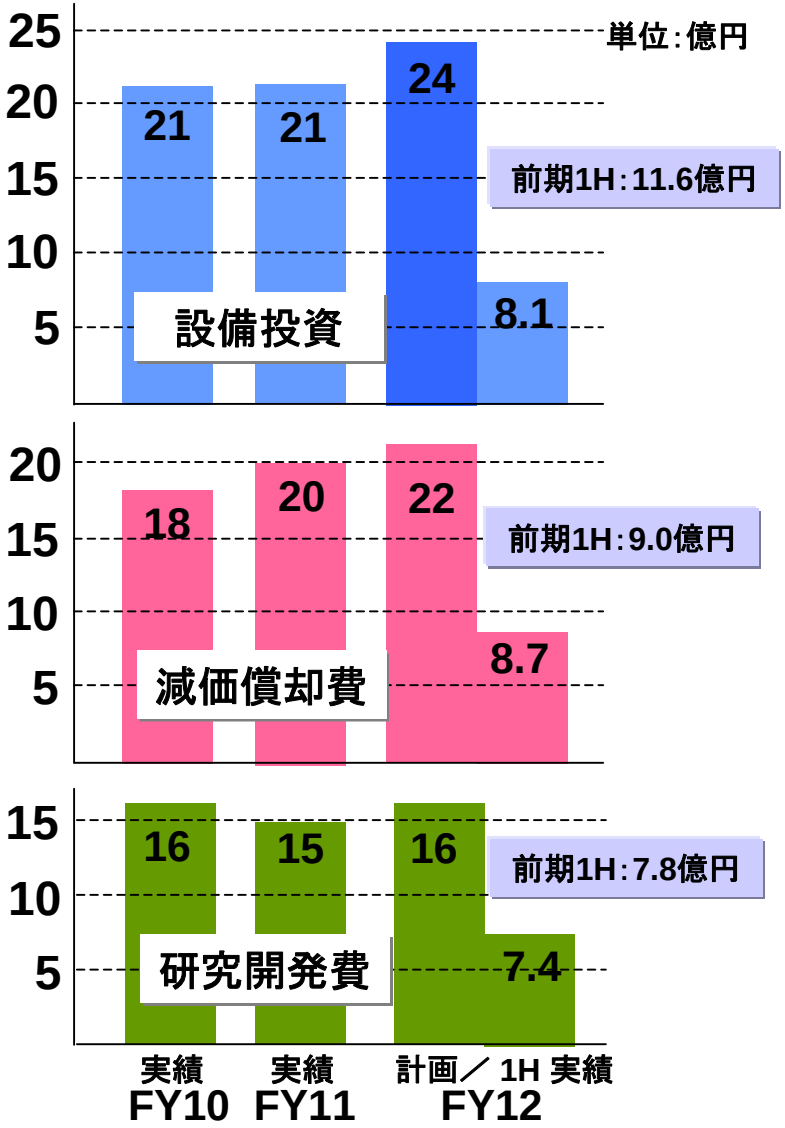
	2011.3末	2012.3末	2012.9末	前期比増減	
流動資産	151	137	124	△13	
現金及び預金	67	53	48	△ 5	← 売上減による減少
受取手形・売掛金	43	45	41	△ 4	← 売上減による減少
棚卸資産・その他資産	41	39	35	△ 4	← 事業撤退等による減少
固定資産	133	125	115	△ 10	
有形固定資産	108	102	94	△ 8	← 減損処理
無形固定資産	2	1	1		
投資・その他資産	23	22	21	△ 1	
資産合計	283	262	239	△ 23	
流動負債	103	97	91	△ 6	
支払手形・買掛金	19	16	12	△ 4	← 売上減による仕入減少
短期借入金	67	63	56	△ 7	← 借入金返済
その他負債	17	18	23	5	
固定負債	13	15	19	4	← 長期借入増加
負債合計	116	112	110	△ 2	
株主資本	178	163	142	△ 21	← 当期純損失
純資産合計	167	150	129	△ 21	

キャッシュフロー･設備投資･減価償却費･研究開発費

キャッシュフロー

前期1H
営業CF：4.9億円
投資CF：△12.3億円
財務CF：2.1億円
現預金残：61億円

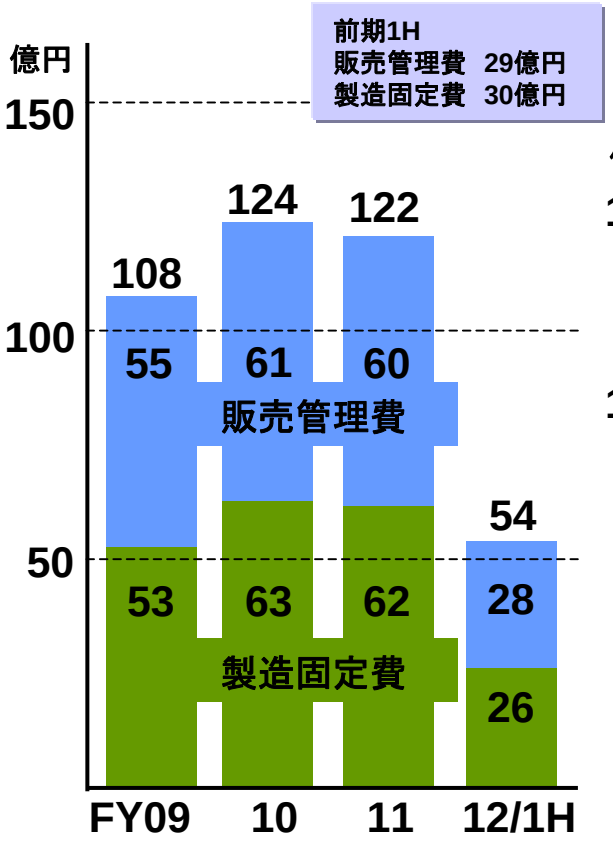




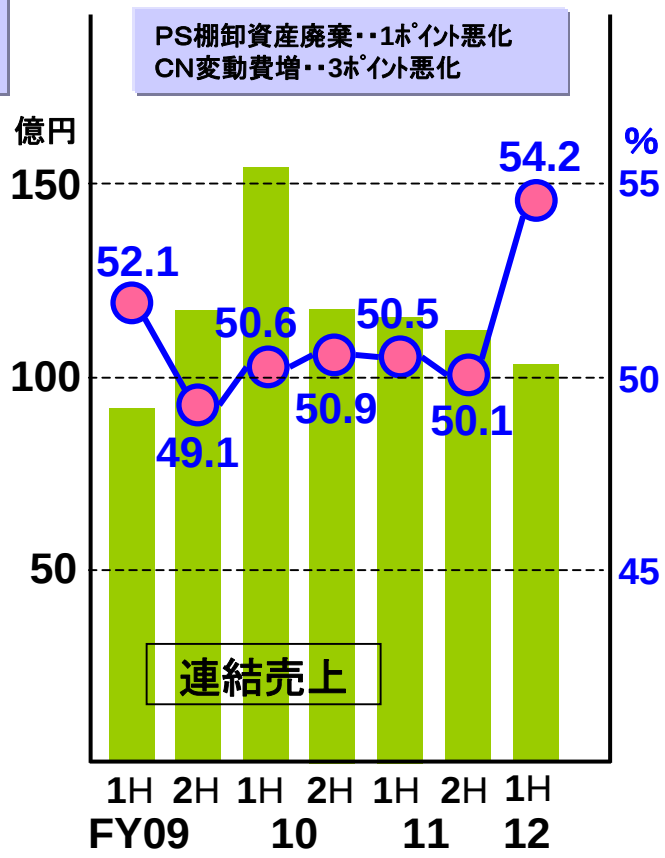
ＦＹ2012/1Hのコスト構造

1H 固定費削減を強力に推進

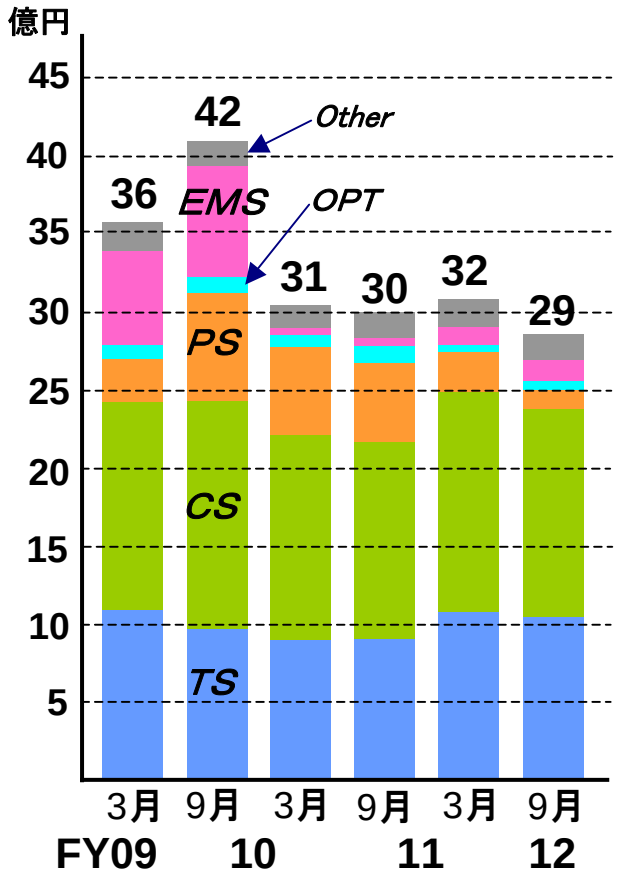
製造固定費･販管費



売上高変動費率



事業別在庫額



ご説明内容

【1】上期決算と構造改革

【2】ＦＹ2012/1Ｈ業績について

【3】ＦＹ2012業績見通しについて

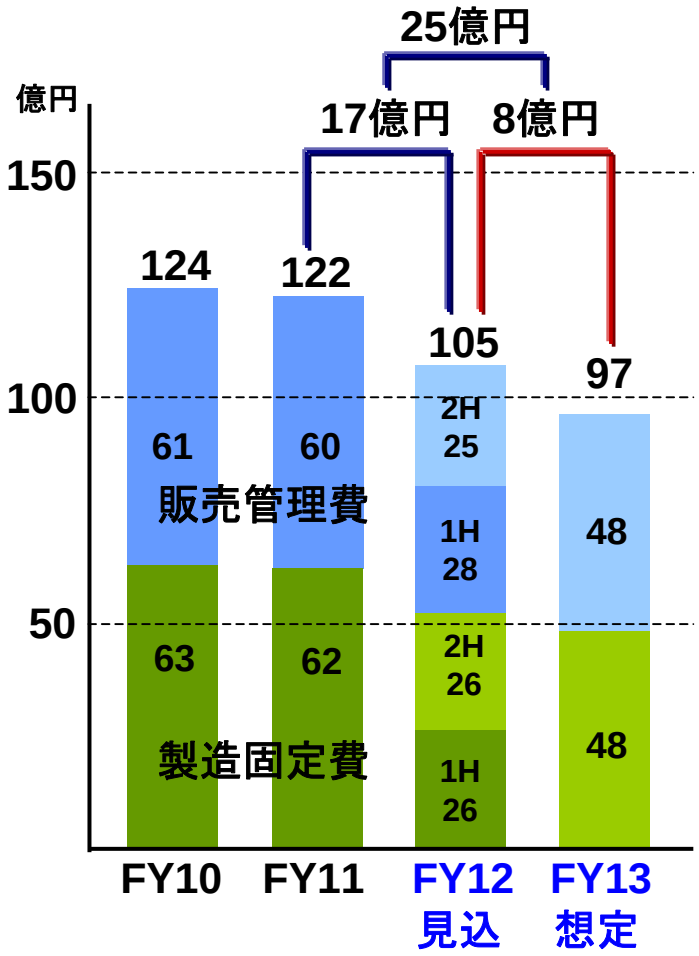
【付属】山一電機について

構造改革

事業の選択と集中	PS事業の廃止
	EMS事業の縮小
	TS・CS・OPT事業に経営資源集中
国内規模縮小 海外拠点強化	希望退職等による固定費圧縮　※次ページ詳細
	本社移転（佐倉事業所に集結）13年8月予定
	海外販売の強化、海外への生産・機能の移管推進
キラー商品の連鎖的創出	TS事業：豊富なテストソリューションの提案強化
	CS事業：先行商品（CFP2・BEC）を活用し次のニーズを獲る
	OPT事業：キラー商品の卵（NexT35）等の量産化

構造改革

固定費圧縮

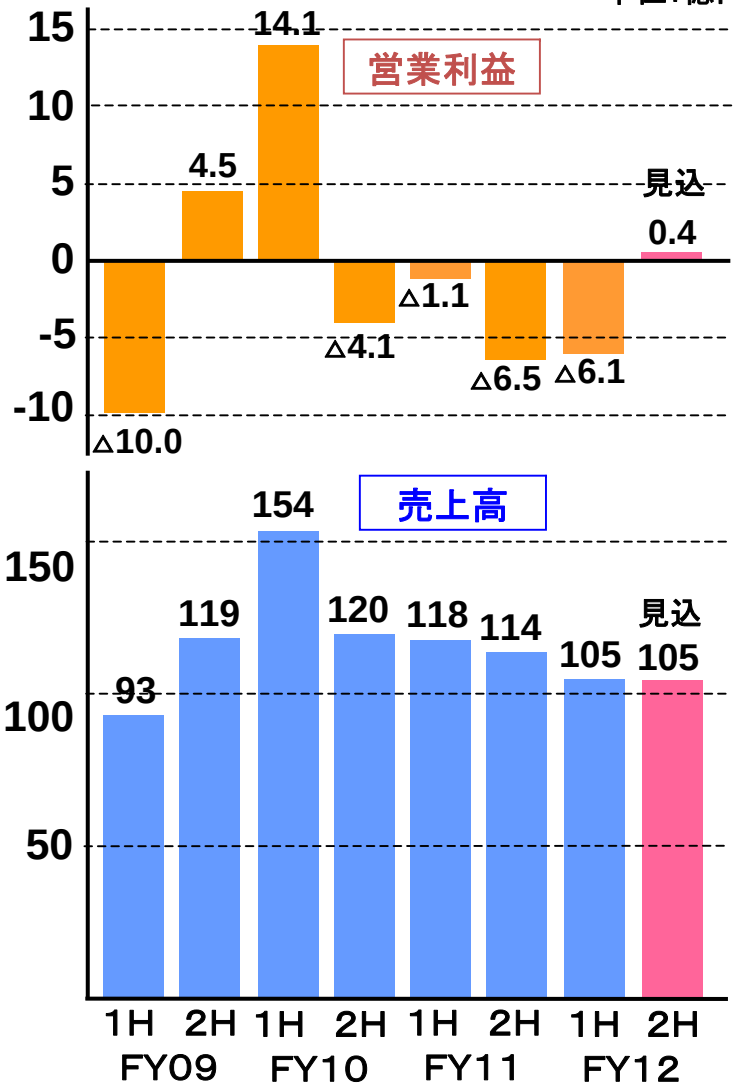


固定費の圧縮	FY12（FY11比）	FY13（FY12比）
人員削減	2億円	5億円
減損による減価償却費の減少	2億円	1億円
報酬･給与賞与の削減	4億円	1億円
諸経費の圧縮	2億円	
PS事業縮小･撤退	5億円	1億円
その他	2億円	
計	17億円	8億円

当期予想

構造改革で　2H予想　営業利益確保へ

単位：億円



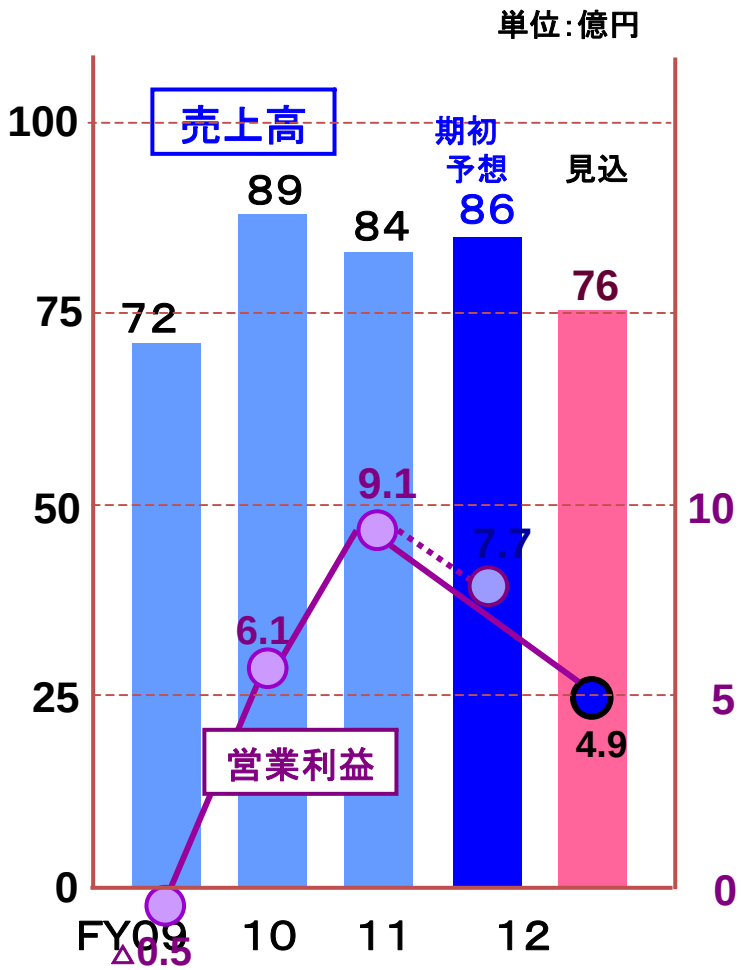
単位：億円

	FY2012			
	上期 実績	下期 見込	通期 見込	期初 予想
売上高	105	105	210	240
（売上原価）	83.3	79.8	163.2	176
売上総利益	21.7	25.1	46.8	64
（販売管理費）	27.8	24.6	52.4	60
営業利益	△6.0	0.4	△5.7	4.0
（営業外損益）	△4.0	△0.6	△4.6	△2.0
経常利益	△10.0	△0.1	△10.2	2.0
（特別損益）	△9.9	△5.0	△14.9	0
（法人税等）	0.7	0.7	1.4	1.7
当期利益	△20.6	△5.8	△26.4	0.3

※特別損失　5億円・・・ 特別退職加算金等

TS事業（テストソリューション）

シェアアップによる売上確保とコスト削減



●今期の状況

・半導体メーカーの投資抑制により売上減少

●来期の市場見通し

・DDR4への投資が始まる

・ゆるやかに需要回復



プローブピン テストソケット

●損益改善に向けて

テストソケットビジネス強化

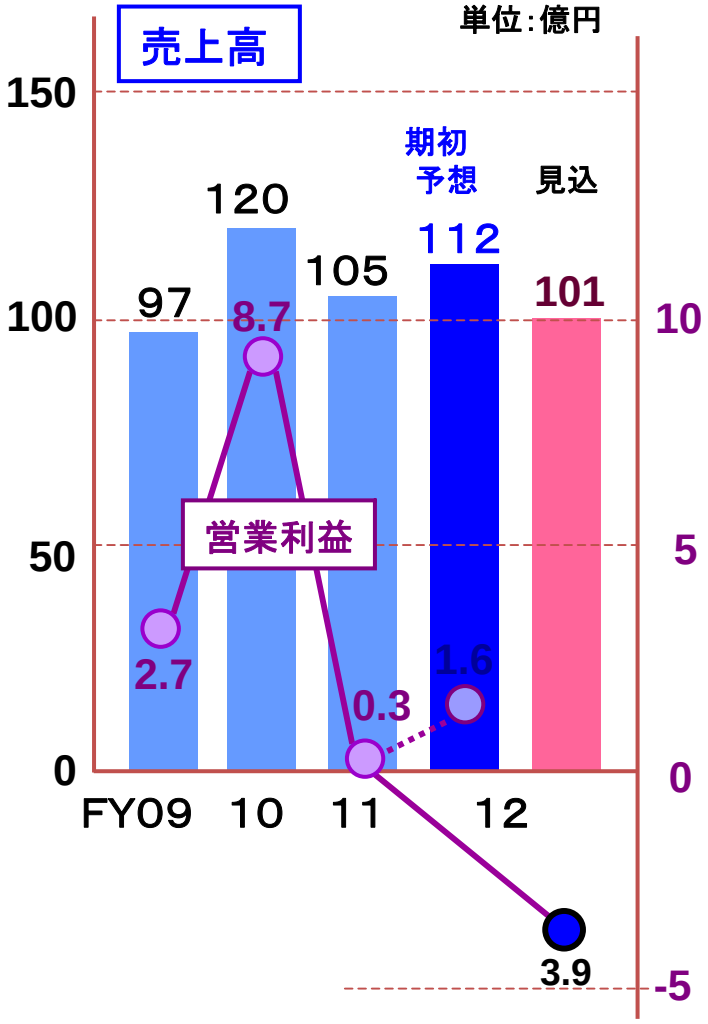
・海外ユーザーのニーズ・シーズを着実に受けとめる
・サービス向上により顧客とのパイプを太く強くする
・先端技術を活用した提案を積極的に行う

オペレーションコスト削減

・フィリピン工場への生産／機能の移転を強力に推進する

CS事業（コネクタソリューション）

高速伝送、車載、産機市場を攻める



●今期の状況

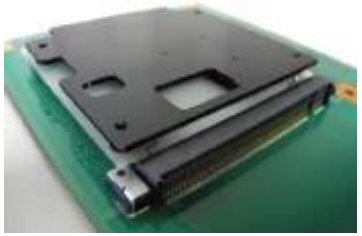
・YFLEXは堅調（アミューズ・車載）
・デジタル家電（DSC・PC・TV・PRT）が低調

●来期の市場見通し

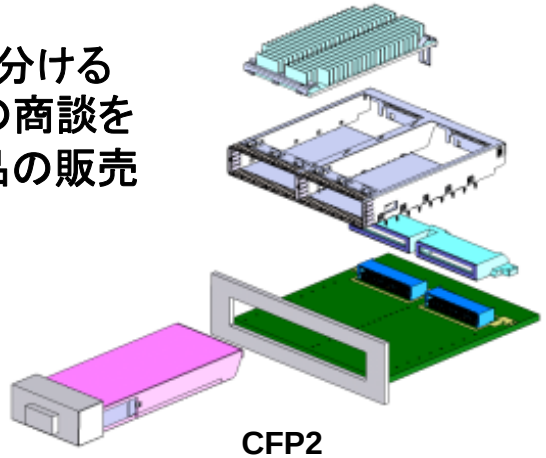
・デジタル家電の大幅な回復は望めない
・通信インフラ、スマートフォン、MID市場は順調
・車載、産機は一時低迷から少しづつ回復傾向へ

●損益改善に向けて

・ターゲット市場・・・高速伝送、車載、産機
・足元の行動
　早期にAOCの量産を立上げる
　捨てる市場と注力する市場を切り分ける
　高速伝送（CFP2）、車載（BEC）の商談を着実に受注に結びつけ、周辺商品の販売にもつなげる



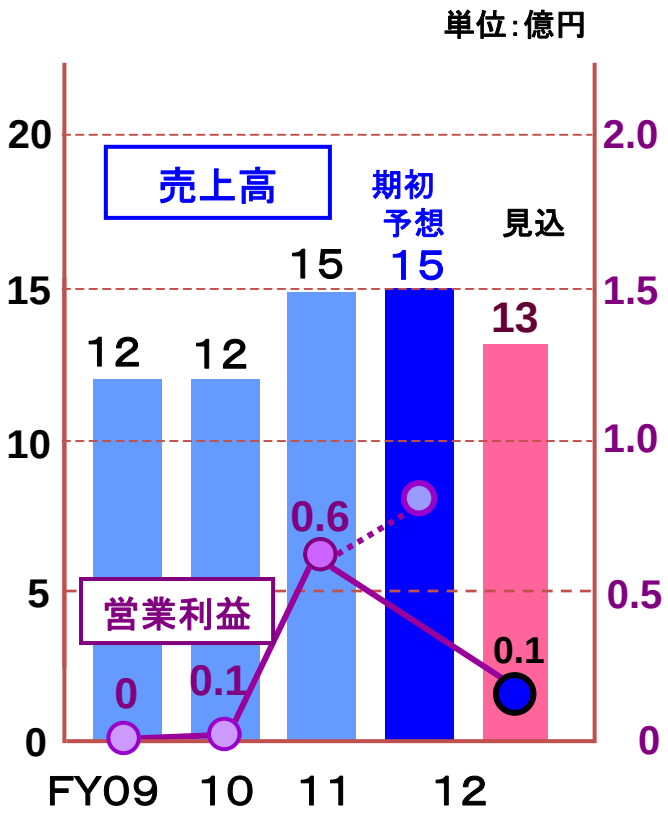
BEC



CFP2

OPT事業（光関連）

キラー商品（NexT35）のビジネス展開



●今期の状況

・DSC・DVC向けが低調

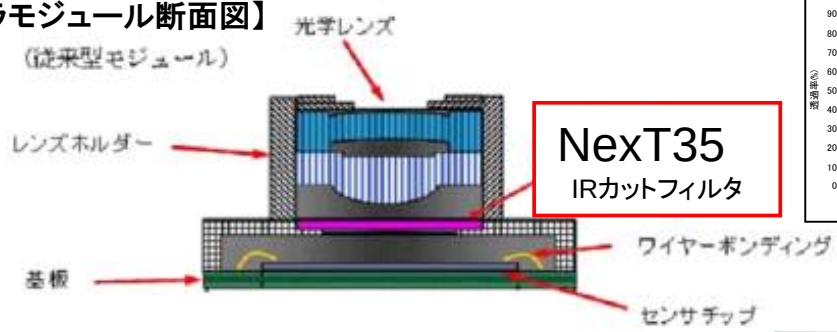
●来期の市場見通し

・DSC・DVCの大幅な回復は望めない

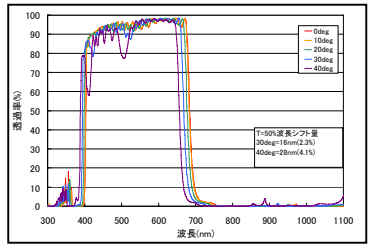
●損益改善に向けて

・キラー商品の卵の量産化

【カメラモジュール断面図】

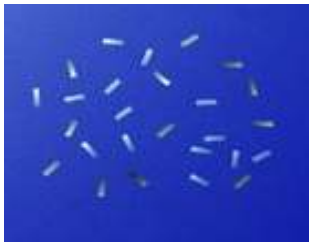


【光学特性】





1μm帯波長可変レーザ光源
（神奈川工業技術開発奨励賞受賞）



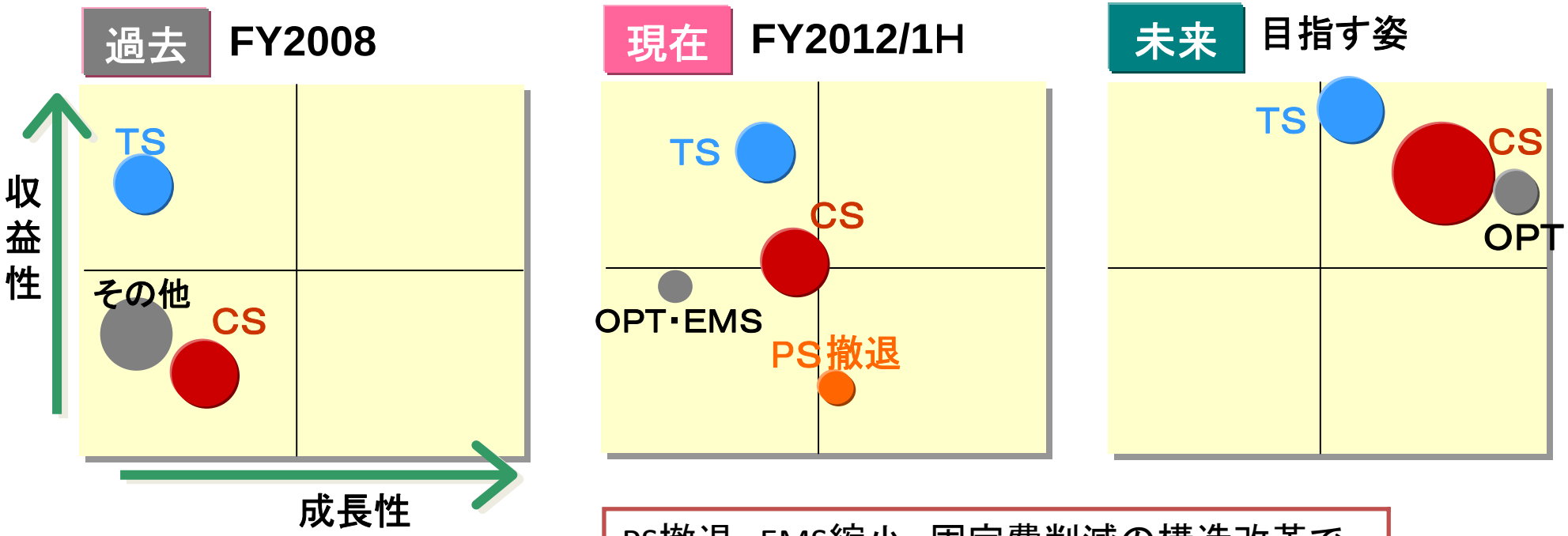
光通信向けポリイミドフィルタ



NexT35（IRカットフィルタ）

過去・現在・未来

CS、TS、光関連事業に集中し、成長を目指す



PS撤退、EMS縮小、固定費削減の構造改革で
収益改善を実現します

※成長性は過去3年の増収率、収益性は営業利益率

ご清聴ありがとうございました。

問合せ先：経営管理部広報課　笹川康彦

TEL：03-3778-6153　FAX: 03-3778-6171

http://www.yamaichi.co.jp

E-mail: sasagawa@yamaichi.co.jp

ご説明内容

【1】上期決算と構造改革

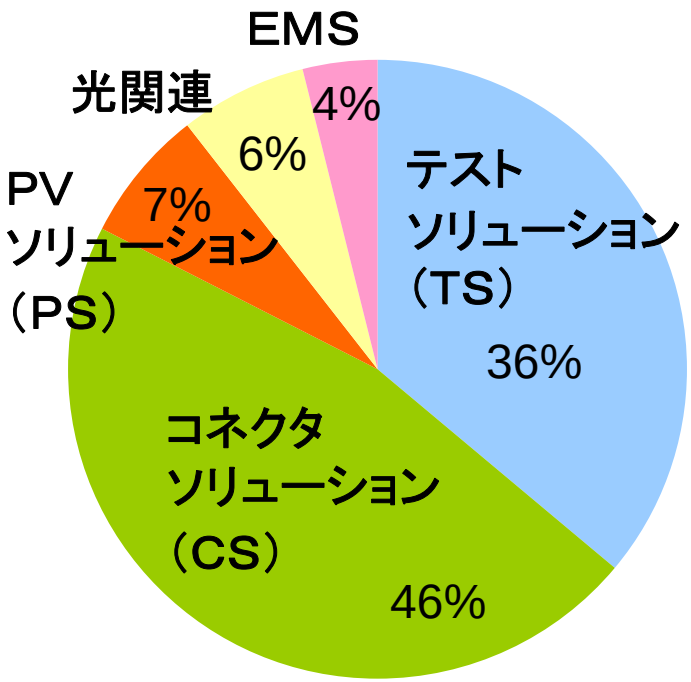
【2】ＦＹ2012/１H業績について

【3】ＦＹ2012業績見通しについて

【付属】山一電機について

山一電機について

【売上高構成比 FY2011】



●概要

本社	東京都大田区
設立	1956年11月1日
資本金	10,047百万円（株式 23,289千株)
従業員数	465名 （グループ 3,126名）
	※2012/ 9末現在、
拠点	国内 5社（8拠点）、海外13社（15拠点）

●創立56年の接触機構部品メーカー

バーンインソケット（世界シェア40%）の最大手
コネクタはメモリカード・高速伝送に強み

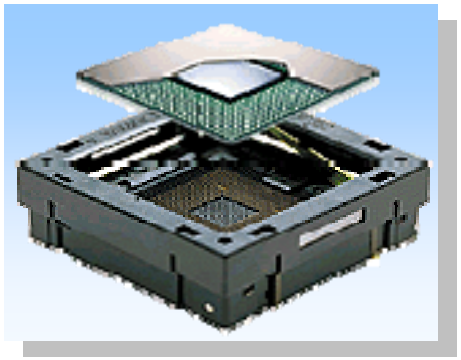
●海外比率

売上比率59%、生産比率86%（FY2011）
開発・生産・販売をグローバルに展開
海外マネージメントはローカル比率が高い

山一電機について

事業および製品紹介

■テストソリューション（TS）事業



・バーンイン検査用ICソケット
・テスト用ICソケット
・プローブピン
・プローブカード
・半導体テストサービス

■光関連（OPT）事業



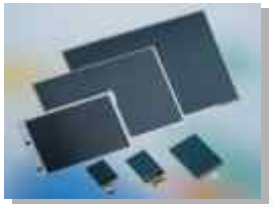
・光学薄膜フィルタ
・半導体レーザ光源
・光モジュール

■コネクタソリューション（CS）事業



・メモリーカードコネクタ
・高速伝送用コネクタ
・実装用ICソケット
・YFLEX™
（ﾌﾚｷｼﾌﾞﾙﾌﾟﾘﾝﾄ配線板）
・防塵・防水・高電圧コネクタ
（10月よりPS事業から移管）

■EMS事業

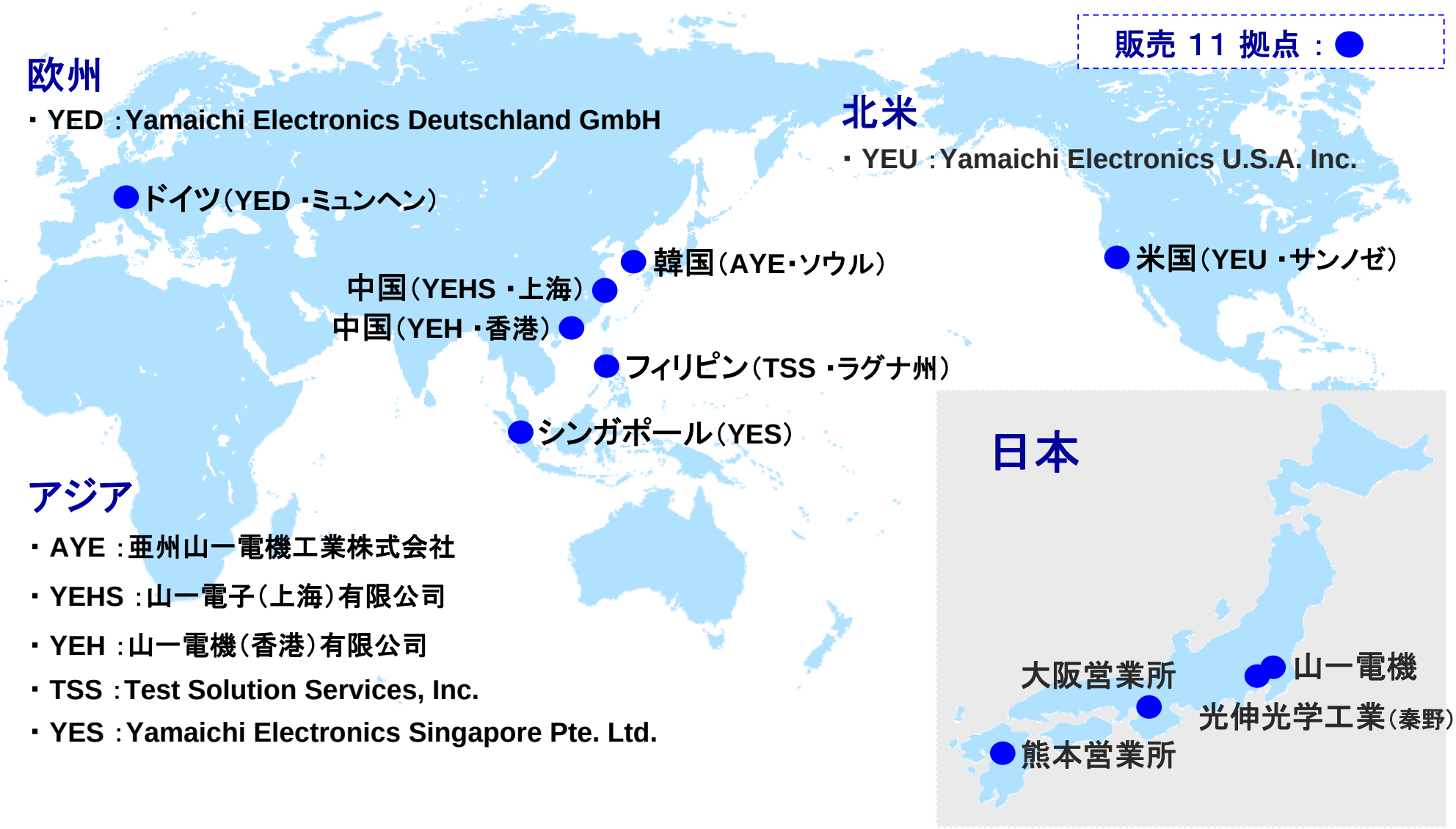




・液晶パネル組立
（ 岡山県　マティ ）
・基板実装サービス
（ フィリピン PMI ）

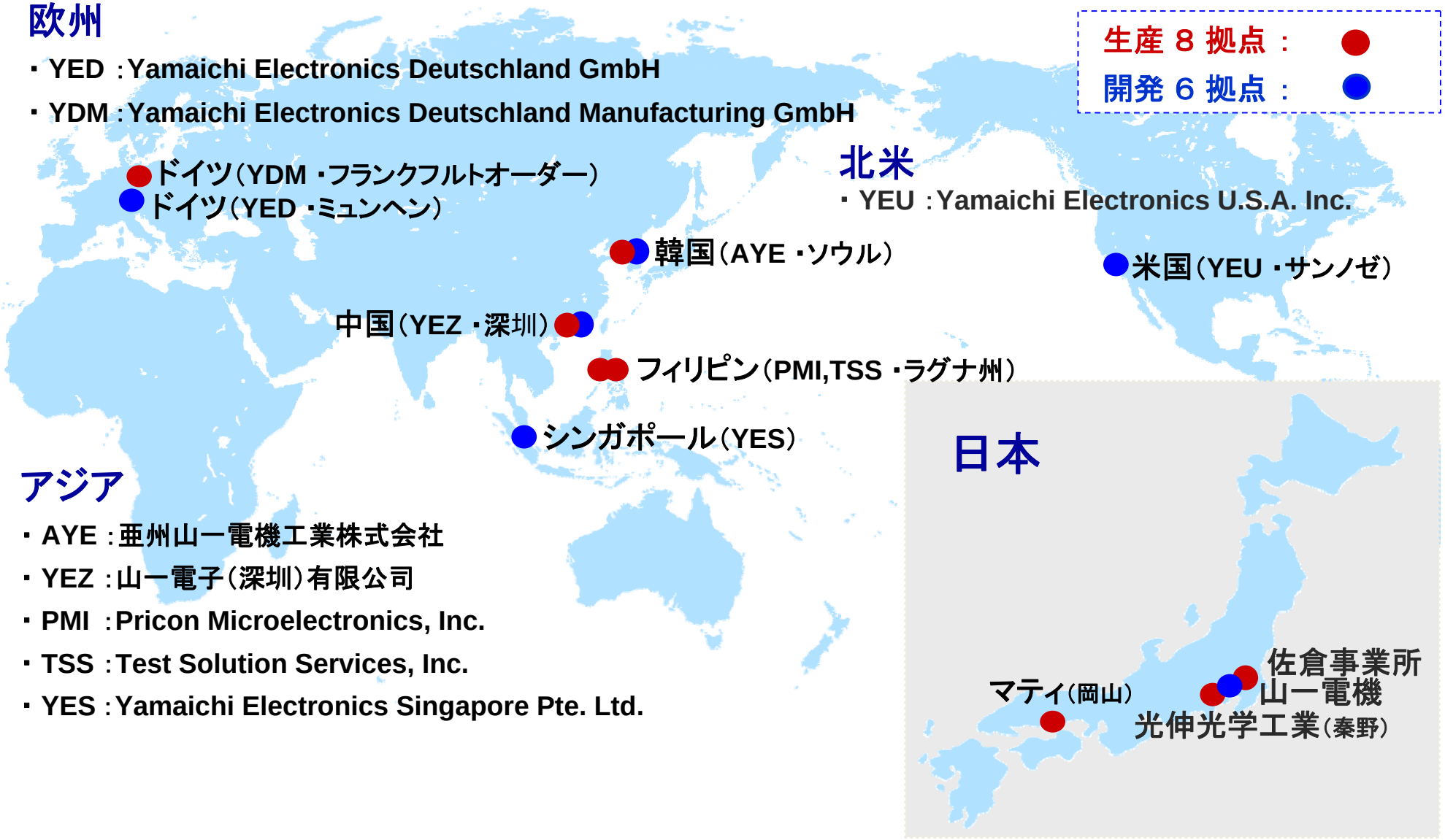
山一電機について

グローバルネットワーク　販売拠点



山一電機について

グローバルネットワーク　生産/開発拠点



山一電機について

長期的な業績の推移

